

天 駆 星

人間のエネルギーは「死」によって宇宙空間に飛び散り、空間の世界へ突入したエネルギーが行き着くところは大宇宙の極の世界なのです。そこは、時間も、空間も存在しない世界です。そのため天駆星世界には、過去もなければ未来もない。存在するのは、現在だけなのです。

時間も空間も全くないですから、幅もなければ、奥行きもない、まして空間の広がりをもつわけでもなく、一点に集まるものでもないのです。その瞬間ににおける力量は、時間と距離をのぞけば、天将星世界といえども勝る事は至難の業なのです。それこそ、超高速で、吹き荒れる暴風の瞬間ににおけるエネルギーのようなものであると言えるでしょう。(「あの世」の星である天駆星は一番エネルギーが弱いように見えますが、じつは非常にエネルギーッシュな星なのです。これは天将星の持つ最も強いエネルギーとは違うのです。天将星は持続性のある強さですが、天駆星は瞬間の強さなのです。)

その瞬間が一つ一つ別個のものになっていて、けっして時間的連絡があり得ない世界なのです。

天駆星世界は、それだけに、じつに多忙な世界であり、休息の時がないのです。それはまた同時に幾種類もの仕事をしたり、役割を与えられても、みごとに消化して行く力となります。

それだけに、これほど、与えられた役目に忠実な世界はありません。(天駆星はたいへんに多忙な世界で気ぜわしいですが、精神は常に平穏なのです。黙々としてその場その場の役目を果たしていくので、それがいつのまにか、見事な蓄積となって財を成したり、一業一芸に秀でるようになるのです。)

また常に感情と行動が一体であるため、そのスピードは他の人達より早く、歩調を合わせることは出来ません。加えて勘性は相當に強いのですが、これは一種の「ひらめき」です。そしてまた、単独行動に走る事になり、孤独な人生を休むことなく、ひた走らなければならない世界なのです。

■初年運(人体星図の肩のところに割り出された星で、この位置を算命術では「初元」の場所と言っています。)

この星を初元に持つた人の初年運は、親と本人の運勢がシーソーゲームを演じることになるという暗示があります。親が健康であれば、本人が病気がちの生活。反対に本人が丈夫なときは、両親のどちらかが健康を害し、生別、死別を含めた片親との離別があります。

青春時代はなかなか変化に富んでいます。便強と遊びに多忙を極め、趣味の世界もかなり広がります。のんびりと青春を楽しむというよりは、ひと口で言えばあわただしい青春です。

■中年運(人体星図の左足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「中元」の場所と言っています。)

中元に、この星を持っている人は、災いの多い中年期という暗示があります。とくに、女性の32歳(数え年の33歳)、男性の41歳(数え年の42歳)の厄年に災いがおきやすくなります。(天極星のときのケースと似ています)家庭的にもどこかしりいきません。表面は穏やかな生活ですが、精神的には落ち着かない中年期です。天駆星が中元の位置に出ている人は、中年期になんらかの形で"落ち込み"を覚悟しなければなりませんしかし、落ち込みのスピードと度合いが激しければ、激しい程、その反動で再び運勢は上昇します。(この復元力を算命術では「絶中の最強」と言いますが、厄年の災いを必ず飛躍の足掛かりにしてしまうのです。)

一番弱い星が一転して強い星に変わるという意味がありますが、天駆星は逆境からの再起に素晴らしいエネルギーを発揮する星で、中年期の後半は充実したものになります。

■晩年運(人体星図の右足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「本元」の場所と言っています。)

本元に、この星を持つ人の晩年運は、家族にトラブルをかかえる暗示があります。これは夫婦間の愛情問題に限らず、子供との間の親子関係におこる問題かもしれません。(範囲が広いのです)たとえば、遺産相続などは、ひと波乱は避けられません。なにかと気苦労を背負うようになる晩年運です。

しかし、これも一時のことであって、これを通り抜ければ精神的に落ち着ける老後がひらけてきます。名誉とかお金に煩わされることのない、一種の悟りの境地を得た老後になります。

●人体星図に天報星が二つ以上出ている人は、健康運と財運が掛合うようにシーソーゲームをします。つまり、お金に苦労をしているときは、健康体を保つことが出来ますが、ゆとりが出来ると絶えず病弱に泣かされます。この星が三つ出ている人は、この傾向が一層強まります。

●本元に天駆星をもっている人で、人体星図の左足に天将星か天禄星が出ていないか調べてみてください。もしも、その星が出ていますと、一生を通じて右足の疾患やケガに注意してください。